# 複合書店の成立過程に関する基礎的研究 <br> Basic study on the formation process of composite bookstores 

○石黒未夏 ${ }^{1}$ ，阿部貴弘 ${ }^{2}$
＊Minatsu Ishiguro ${ }^{1}$ ，Takahiro Abe ${ }^{2}$


#### Abstract

Currently，in the trend of the times＂bookstores＂are disappearing from the town．On the other hand，more than $70 \%$ of bookstores are trying to create new attractions as＂composite bookstores＂．On the other hand，more than $70 \%$ of bookstores are ＂compound book stores＂handling books and magazines．There is a possibility that these may give the region new attractiveness different from conventional bookstores．In this research，we aim to clarify the process of opening these stores．


## 1．はじめに

現在，時代の流れの中で「書店」がまちの中から姿 を消しつつある。書店はここ 20 年で約 9， 700 軒がなく なり，約 6 割程度まで減少した。書店数減少の原因と しては，読書離れ，電子書籍やネット流通の急成長，経営者の高齢化や資金繰りの悪化等が挙げられる ${ }^{[1]}$ 。書店数が減少する中，全体の約 7 割を超える書店が「兼業」店として書籍•雑誌以外の商品を扱っている。書店は「兼業」することによって経営の継続を図る傾向にある。また，他に書店自身が生き残り策として掲 げることは「地域密着化」が最も多く，地域との連携 が重要視されている状況にある ${ }^{[2]}$ 。

兼業することで従来の書店とは異なる機能や魅力を有した複合書店と，その取り組みは，商店街をはじめ とした周辺地域に対して新たな魅力を付加する可能性 にある。

ところが，複合書店をめぐる現状，従来の書店の在 り方とは異なった取り組み，業種展開の過程やそれに より地域に与える効果などの基礎的情報については十分な研究成果が得られているとは言い難い。また，地域と書店との関連を明らかにするためには，「地域密着化」を狙った取り組みの内容を掘り下げることが必要 である．

そこで本研究では，業種展開を経て新たな魅力を打 ち出す「複合書店」に着目し，商店街をはじめとした周辺地域に及ぼす効果の調查•分析に向けた基礎的知見を得るため，複合書店の出店の仕組みを明らかにす ることを目的とする。

## 2．研究対象

本研究では，東京都内における複合書店を対象とす る．特に，日本を代表する「本」の街である神保町と比較的複合書店が多く立地する他 3 地域を選定し，調

查を実施する。複合書店については書籍，雑誌，古本 の販売を行う事業所である「書店」部と，飲食物販売，物品販売，フリースペースを含む複合要素である「複合」部を含んでいるものを対象とし，「書店」部と「複合」部の定義づけを Table 1 に示す。
Table 1．Definition of＂book store＂department and＂complex＂

## department

| 部掂部 | ［枚合］認 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 化隹 | 防嵒敐亦 | （7）－スペース |
|  <br>  |  |  <br>  | キャラリー，イベント門 <br> 隹，鹪出のためかスベース |

また，本研究で対象とする書店は，より地域に密着した取り組みを見るために大型店やチェーン店を除き，売場面積 300 坪以下の中小書店のみを対象とする。

## 3．研究方法

## （1）対象地域の「複合書店」の把握と基礎調査

現地調査及びヒアリング調査に基づき，各地域の複合書店の基礎情報に加えて以下の 3 点をまとめ，それ ぞれ分類することで現状を把握する。
i．複合要素：「複合」部の定義に基づき，複合書店が もつ 3 つの要素を抽出する。さらに 1 つの書店が持つ要素の個数についても分類する。
ii．「複合」化に至るまでの変遷：複合化の際に移転，改築，改装，売り場内での変化があったかと，複合化 に至る意図•目的に着目する。
iii．店舗内の構成：「書店」部と「複合」部の位置関係
（2）出店の仕組みに関する分析
（1）の分析を踏まえて，複合書店の出店の仕組み を各「複合」部ごとに分析する。

## 4．調査結果

対象地域の複合書店について，神保町地域で 13 店舗，他地域として神楽坂地域で 4 店舗，荻窪地域で 2 店舗，

[^0]西荻窪地域で 1 店舗の計 20 店舗の調査を行った。現地調査及びヒアリング調査による各調査結果を Table 2 に示す。各項目における結果と分類については以下の通りである。

## （1）複合要素

調査対象全 20 店舗のうち，「A：飲食物販売」が 7店，「B：物品販売」が 17 店，「C：フリースペース」 の設置が 12 店である。また，「書店」部に複数の要素 を含んでいる書店は 12 店あった。

## （2）「複合」化に至るまでの変遷

創業当時から複合書店だったものが 12 店であり，そ のうちの 10 店が移転や改築等を行わず現在まで経営 を続けている。このうち，「書店」部に 1 つの要素を含 むものが 2 店，複数の要素を含むものが 8 店である。

## 1）「複合化」に至る際の移転，改築，改装等

複合書店へと変容した 8 店について，複合要素を追加する際に移転したものが 4 店，改築が 1 古，改装が 2 店であり，既存の売り場のレイアウトのみを変えた ものが 1 店であった。

## 2 ）「複合」化に至った意図•目的

各意図•目的を 7 点に分類し Table 2 に示す。（4）の書籍に魅力付けが最も多く，特に B の追加の際に書籍 に新たな魅力を付加させている。次いで数の多い①交流の促進が A，C を新たに含む主な動機となっている。

## （3）店内の構成

店舗内の「書店」部と「複合」部のそれぞれの配置，関係性について 4 点に分類し Table 2 に示す。
（1）空間独立型：各要素について，空間が明確に分けら れているもの。Cが圧倒的に多い。
（2）書籍併設型：書籍と複合要素の空間を分断せず，書籍に併設させて同空間の中で配置しているもの。全体 を通して最も採用されている。
③）シジ横型：空間の大半を「書店」部が占めるが，複合要素が小規模にレジの横に配置されているもの。B のみに該当する。
（4）複合部メイン型：同空間の中で配置されるが，「書店」部より「複合」部がメインとなっているもの．

## 5．考察

「A：飲食物販売」は移転することによって新たに出店されており，店舗の外観等を変える必要がある。 また，複合化する意図としては交流の促進を狙ったも のが多く，書籍と関連付けた人々の交流の場が新た に作られている。

「B：物品販売」は，新たに出店する際には移転また は店舗の一部改装を行うか，店舗内の売り場に新たに スペースを設けている。レジ横などの小規模スペース でも運営ができることから，「書店」部に取り入れられ やすいことが推測される。

「C：フリースペース」は，新たに出店する際には移転または店舗の一部改装が行われている。また，「書店」部に複数の要素を含むものほぼ全てにC が含まれてお り，他の要素と関連付けた魅力の打ち出しが見られる。

## 6．今後の課題

調査対象を増やすとともに「複合書店」の出店に至 る過程や地域に及ぼす効果の分析を進める。また，店舗のファサードのデザインや立地状況についての考察 を進め，分析を深める．

## 7．参考文献

［1］経済産業省：「商業統計調査」，経済産業省，2017
［2］日本書店商業組合連合会：「全国小売書店経営実態調査報告書」，日本書店商業組合連合会，2016
［3］柴野京子：「書店をめぐる現在」，情報の科学と技術， Vol．63，No．8，pp．310－314， 2013

Table 2．A list of multiple bookstores



[^0]:    1：日大理工•学部・まち 2 ：日大理工•教員・まち

